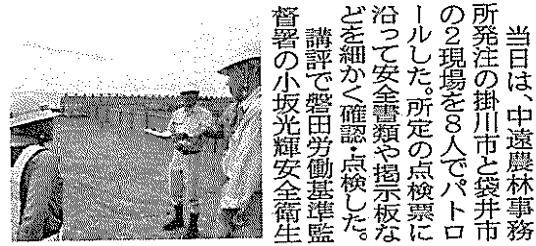


# 地域 NEWS

## 掛川・袋井市の 2現場を安パト

建設業労働災害防止協会静岡岡県支部袋井分会(岡野良隆分会長)と袋井建設業協会安全委員(堀内豊委員長)は3日、警田労働基準監督署、静岡岡県中遠農林事務所と合同で安全パトロールを実施した。写真。



当日は、中遠農林事務所発注の掛川市と袋井市の2現場を8人でパトロールした。所定の点検票に沿って安全書類や掲示板などを細かく確認・点検した。講評で警田労働基準監督署の小坂光輝安全衛生課長は、県内、管内の事故発生状況を説明し「2016年度と比較し、現場での事故発生件数が増加している。重機の接触対策などを講じてほしい」と話した。また、中遠農林事務所の森泉検査監は「出入り口、現場内の接触防止措置の継続をお願いしたい」と要望した。

建設防袋井分会では、通常のパトロール以外に繁忙期となる年末にも官民合同パトロールを予定している。

## 新原小で浄化槽教室を開催

浄化槽協西遠支部 静岡岡県浄化槽協会西遠支部(渥美重陽支部長)は3日、新原小学校(浜北区)の4年生65人を対象に浄化槽教室を開催した。浜松市上下水道部と協力し、汚水処理の仕組みや合併浄化槽の役割と

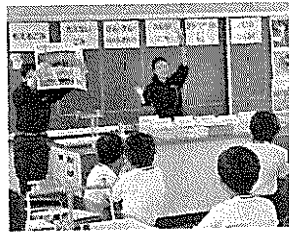


意義などを伝えた。市職員や支部のメンバーが講師を務め、汚水処理の歴史や単独と合併、両浄化槽の違いを解説。続いて汚水の有機物を分解する微生物の動きを顕微鏡で観察した他、浄化槽のミニチュアモデルを写真で内部の機能を学んだ。

渥美支部長は「今後も市と協働し、合併浄化槽の普及に力を入れていきたい」と話した。

## 有玉小で出張授業 環境の重要性説明

ミダック(浜松市東区、矢板橋一志社長)は、浜松市立有玉小学校で「出張授業(環境教育)」を行った。同校の4年生95人を対象に、カードを使った「ごみの分別ゲーム」写真などを通して環境負荷



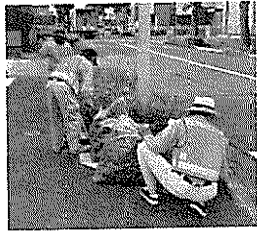
低減の重要性を伝えた。CSR(企業の社会的責任)活動の一環として実施しているもので、本年が7回目。「日常生活におけるごみ分別の重要性について知ろう!なぜ分別が必要なの?」をテーマに、2017年度の新年新入社員2人が講師を務めた。

矢板橋社長は「環境保全の意識を広めていくため、今後も長く続けていきたい」と話している。

## 地域貢献

### 早出細島線で 清掃活動実施

大場上下水道設計(浜松市中区、大野英也社長)は、浜松市の「道路・河川里親制度」に基づき、2017年度6回目となる清



掃活動を実施した。写真。社員15人が参加した。市道早出細島線(中区早出町・中区細島町)の約1.5区間で、歩道と車道にある雑草の刈り取りやごみを収集した他、道路の破損や危険箇所の目視点検を実施した。落ち葉が多数あり、集めたごみは25袋に上った。

同制度に基づく清掃活動は今回で通算22回目。今後も地域社会の一員として環境保全に努めていく方針である。